

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 9 月 14 日 (2006.9.14)

【公開番号】特開 2001-39959 (P2001-39959A)

【公開日】平成 13 年 2 月 13 日 (2001.2.13)

【出願番号】特願 平 11-211798

【国際特許分類】

**C 0 7 D 285/34 (2006.01)**

**C 0 7 K 16/44 (2006.01)**

**C 1 2 P 21/08 (2006.01)**

**G 0 1 N 33/53 (2006.01)**

**G 0 1 N 33/577 (2006.01)**

**C 1 2 N 5/10 (2006.01)**

**C 1 2 N 15/02 (2006.01)**

**C 1 2 R 1/91 (2006.01)**

【 F I 】

C 0 7 D 285/34

C 0 7 K 16/44

C 1 2 P 21/08

G 0 1 N 33/53 J

G 0 1 N 33/577 B

C 1 2 N 5/00 B

C 1 2 N 15/00 C

C 1 2 P 21/08

C 1 2 R 1:91

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 7 月 27 日 (2006.7.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

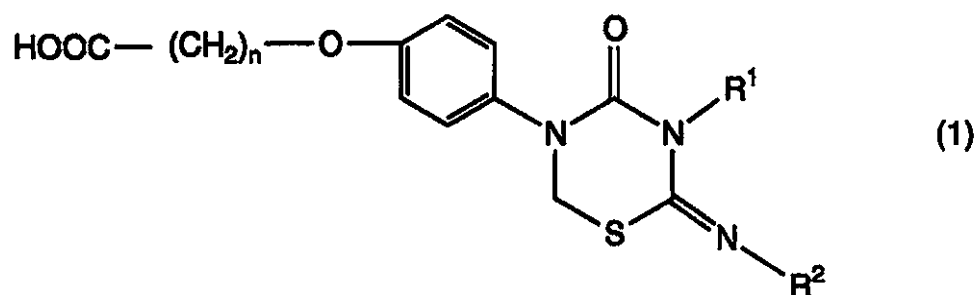
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

以下の式 (1) :

【化 1】



〔式 (1) 中、

$R^1$  および  $R^2$  は、同一であっても異なってもよい、枝分かれしていてもよい炭

素数 1 ないし 6 のアルキル基であり ; そして

$n$  は、1 ないし 10 の整数である ]

で表される構造を有する化合物。

【請求項 2】

式 (1) において、 $R^1$  がイソプロピル基であり、そして  $R^2$  が  $t$ -ブチル基である、請求項 1 に記載の化合物。

【請求項 3】

式 (1) において、 $n$  が 5 である請求項 1 又は 2 に記載の化合物。

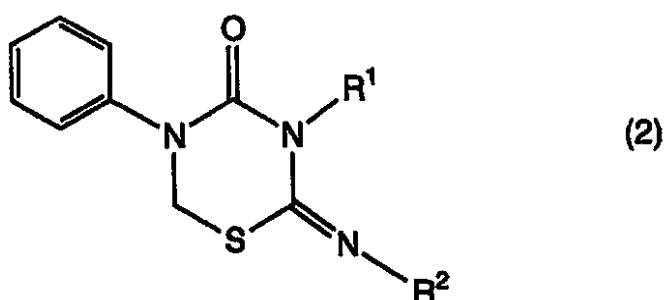
【請求項 4】

請求項 1 ないし 3 のいずれか 1 項に記載の化合物と高分子化合物又は標識物質との結合体。

【請求項 5】

請求項 1 ないし 3 のいずれか 1 項に記載の化合物と高分子化合物を結合させることにより抗原を作製し、当該抗原を用いることにより、以下の式 (2) :

【化 2】



[ 式 (2) 中、 $R^1$  および  $R^2$  は、同一であっても異なってもよい、枝分かれしていてもよい炭素数 1 ないし 6 のアルキル基である ]

で表される構造を有する化合物に反応性を示す抗体を製造することを特徴とする、式 (2) で表される構造を有する化合物に反応性を示す抗体又は抗原と結合可能なそのフラグメントの製造方法。

【請求項 6】

式 (2) において、 $R^1$  がイソプロピル基であり、そして  $R^2$  が  $t$ -ブチル基である、請求項 5 に記載の製造方法。

【請求項 7】

請求項 4 に記載の結合体を抗原として用いることにより製造された、式 (2) の化合物に反応性を示す抗体又は抗原と結合可能なそのフラグメント。

【請求項 8】

モノクローナル抗体である、請求項 7 に記載の抗体又は抗原と結合可能なそのフラグメント。

【請求項 9】

モノクローナル抗体 41E3-4-14 である、請求項 7 若しくは 8 に記載の抗体又は抗原と結合可能なそのフラグメント。

【請求項 10】

請求項 7 ないし 9 のいずれか 1 項に記載の抗体を産生するハイブリドーマ。

【請求項 11】

寄託番号 FERM P-17468 で寄託されている、請求項 10 に記載のハイブリドーマ。

【請求項 12】

請求項 7 ないし 9 のいずれか 1 項に記載の抗体又は抗原と結合可能なそのフラグメントを用いることを特徴とする、式 (2) で表される化合物の免疫学的測定方法。

【請求項 13】

さらに、請求項 1 ないし 3 のいずれか 1 項に記載の化合物、又は請求項 4 に記載の結合体を用いることを含む、請求項 1 2 に記載の免疫学的測定方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、2 - t e r t - ブチルイミノ - 3 - イソプロピル - 5 - フェニル - 3 , 4 , 5 , 6 - テトラヒドロ - 1 , 3 , 5 - チアジアジン - 4 - オン（以下、本明細書中「ブプロフェジン」と言う）のハプテン化合物、抗原、抗体及び抗原と結合可能なそのフラグメントに関する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0002】

本発明はさらに、前記抗原、抗体及び抗原と結合可能なそのフラグメントを用いた免疫学的測定方法に関する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、ブプロフェジンおよびその類縁化合物（以下、文脈により「ブプロフェジン類縁化合物」あるいは単に「ブプロフェジン」という）に反応する新規な抗体若しくは抗原と結合可能なそのフラグメント、及びその作製方法を提供することを目的とする。尚、本明細書において抗体の「フラグメント」とは、抗原と結合可能な抗体の一部分、例えば  $F_{ab}$  断片等を意味する。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

本発明は、さらに、ブプロフェジンハプテンと高分子化合物との結合体を提供することを目的とする。

本発明は、さらにまた、前記抗体を産生するハイブリドーマを提供することを目的とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

本発明は、さらに、前記抗体若しくは抗原と結合可能なそのフラグメント及び/又は前

記ブプロフェジンハプテンと高分子化合物との結合体を使用することを含み、ブプロフェジン類縁化合物の免疫学的測定方法を提供することを目的とする。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0056】

(d)の工程に用いることのできるミエローマ細胞としては、例えば、Balb/cマウス由来骨髓腫細胞株のP3/X63-Ag8(X63)(Nature, 256, 495-497(1975))、P3/X63-Ag8.U1(P3U1)(Current Topics in Microbiology and Immunology, 81, 1-7(1987))、P3/NSI-1-Ag4-1(NS-1)(Eur. J. Immunol., 6, 511-519(1976))、Sp2/0-Ag14(Sp2/0)(Nature, 276, 269-270(1978))、FO(J. Immunol. Meth., 35, 1-21(1980))、MPC-11、X63.653、S194等の骨髓腫株化細胞、あるいはラット由来の210.RCY3.Ag1.2.3.(Y3)(Nature, 277, 131-133, (1979))等を使用できる。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0100

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0100】

【表 2】

**表 2 マウス抗血清を用いたブプロフェジンの測定**

ブプロフェジン濃度	吸光度(490nm)	吸光度の差
0 ng/mL	0.410	—
10 ng/mL	0.375	0.035